

龍源寺報

令和6年（2024年）秋彼岸号

臨住	宗職	妙松	心原	寺信	派樹
佛母	住職	住職	松原	覺行	樹樹
正福	住職	住職	松原	行樹	樹樹
TEL 03-3451-1853					
FAX 03-3451-6094					

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

秋彼岸会におもっうー 弥勒菩薩ー

龍源寺住職 松原信樹

日本において、弥勒菩薩といえば、誰しもが京都太秦の広隆寺や奈良斑鳩の中宮寺の弥勒菩薩半跏思惟像を思い浮かべるに違いない。いずれも飛鳥時代の最高傑作の一つとされている。和辻哲郎は、中宮寺の弥勒菩薩半跏思惟像について、「まことに至純な美しさで、また美しいとのみでは言いつくせない神聖な美しさである。この像は本来観音像であるのか弥勒像であるのか知らないが、その与える印象はいかにも聖女と呼ぶのがふさわしい」(『古寺巡礼』)と評している。

一方、中国において、弥勒菩薩は、古来、その化身が布袋和尚だと考えられてきた。京都宇治の黄檗宗大本山・万福寺では、天王殿に大きなお腹で微笑みをたたえた弥勒菩薩の化身である布袋像が祀られている。日本では、これを七福神の一つとしている。江戸時代の臨済宗妙心寺派の学僧である無著道忠(一六五三～一七四五)は、「日本の黄檗山万福寺の僧堂、布袋和尚を安じて聖僧と為す。未だ其の拠る所有ることを聞かず」(『禅林象器箋』(霊像類上・聖僧条))と、奇異なことだとしたが、女性俳人、田上菊舎が、「山門を出ずれば日本を茶摘み唄」(万福寺の三門前の句碑)と詠むように、中国・明朝様式

を忠実に模した万福寺に布袋和尚の姿をした弥勒像が祀られていることは、決して不思議なことではない。

平安時代中期、日本の浄土教は隆盛を誇る中で、弥勒菩薩は、阿彌陀仏と並んで信奉された記録がある。平安中期の天台宗の学僧である源信(九四二～一〇一七)は、『往生要集』の中で、中国・浄土五祖の一人である懷感禪師の語を引き、「兜率天に生まれたいと願う者は、西方浄土に生まれたいと念じているものをそしつてはいけません。西方浄土に生まれたいと念じている者は、兜率天に生まれるための修行をそしつてはいけません。それぞれが自分の願いに従って、思うまま修行すればよく、その是非を論ずる必要はありません」(巻上・大文第三条)とあるのはそうした例の一つである。

「布袋和尚は弥勒の化身なり」(『十訓抄』下・十ノ七十三)とあるように、弥勒菩薩の化身としての布袋和尚は、七福神の中でも唯一実在する人物として現代の日本でも多くの人々に親しまれ、古来よりさまざまな人々の信仰の中に生き続けている。毎年、正月に七福神巡りをする人も多くいる。また、修行を重んじる臨済宗でも、古来より伝承されている『十仏名』の中で「当来下生弥勒尊仏」(将来に兜率天から下生して衆生を救済される弥勒菩薩)と、弥勒菩薩を尊崇している。このような弥勒菩薩に込められた人々の心をこれからも大切に受けとめていきたい。

ご寄付

金三千万円 匿名殿

金百万円 匿名殿

金五万円 柳澤明史殿

かんのんさまに

金五千円 天野富美子殿

ありがとうございました

※大変貴重なご寄付をありがとうございました。龍源寺の周囲が再開発される中、龍源寺を地域の文化資源の一つとして捉え、先々代から三代続く境内整備に力を注いで参ります。ご支援いただける個人・団体・法人の皆さまに改めてご協力を賜りたくお願い申し上げます。未熟者ですが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

龍源寺住職 松原信樹

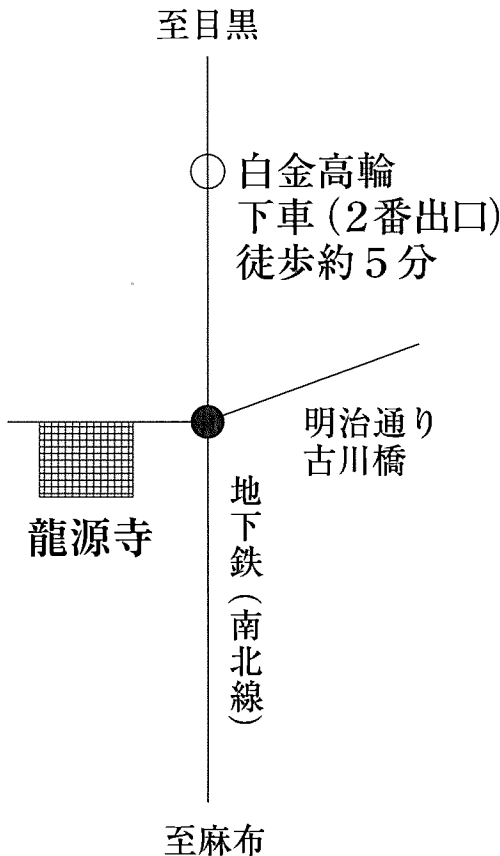
秋彼岸会

一、九月二十二日（日曜日・秋分の日）午前十一時

一、法話

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。



「水月堂」工事の様子

※水月堂とは、江戸期に龍源寺境内に実在したお堂の名称です。



エレベーターが設置されました。



2階への階段が作られました。



納骨堂前、広尾の天真寺さんからいただいた蓮が咲きました。



2階の正面



Instagram を始めました。アカウントは ryugenji.zen です。お寺の行事や工事の状況などを配信していきます。



柳緑花紅

秋彼岸会を迎えます。皆さまいかがお過ごしでしょうか。大変高額なご寄付をありがとうございました。龍源寺開創三五〇年の後の更

なる未来に向け、計画内容を見直しながら、有用な整備を続ける所存でございます。三代続く借地の整備などまだまだ、龍源寺には、取り組むべき問題があります。皆様におかれましては、今後とも、物心両面にわたりお支え下さいませよう、心よりお願い申し上げます。▼建築家の山本哲也さんをはじめ、英社寺建設の職人さん達により、納骨堂の建築が進められています。先日、職人さん達と龍源寺の花園会館で暑氣払いをしました。揚げ物を中心に、ボリュームのあるお食事をだしたところ、皆さんとても喜んでおりました。技術も高いし、お酒も強い、食欲も旺盛、素晴らしい職人さん達です。天候の関係で、工事がおくれています。引き続き、工事の状況など、Instagramで配信します。宜しくお願い申し上げます。

▼母は、特段、旅行やおいしいものを食べにいくとかしませんが、テレビでオリンピックをみたり、高校野球をみたり、元気に過ごしています。普通が一番いいのかもしれない。夏休みは、アメリカから姪二人が龍源寺に来て、賑やかな八月となりました。十月は、一〇四歳で亡くなった母の実母の三回忌法要を北鎌倉の雲頂庵にて行います。家内の亜矢さんは、中耳炎や喉の不調などがありますが、会社の仕事と寺の仕事と娘のことで忙しく過ごしています。先日、偶然知人が撮った仕事場での写真を拝見したところ、大変いきいきとした顔つきでしたので、会社の仕事も大切にしてもらいたいと思います。縁があつてお寺に嫁いで十年になります。早いものです。▼今年は、六月末の日月庵坐禅堂での三十人の社員研修から始まり、七月いっぱい休み無く過ごしたせいかわ、いざ八月に入り、北軽井沢の日月庵坐禅堂の仕事に着手しようとしたところ、歯の痛み、膝の痛みに襲われました。膝の痛みに関しては、

椎間板ヘルニアとのこと。身体に気をつけながら、がんばっていきなりたいと思います。年をとるにつれ、仏像の美しさを思うようになりました。今号では、弥勒菩薩を取り上げました。▼以前、法要後の御齋で配膳いただいたきながら、コロナ禍で閉店した品川区中延の「秀」さんが、テイクアウト専門で、折り詰め弁当を再開いたしました。法要後の御齋にご利用ください。03-3787-0130 (<https://hide-nakanobu.rwop.jp/>) お檀家さまで、お葬式をだされる場合、病院にて、知っている葬儀社がない場合、「あおば葬祭」にお願い致します。0120-037-652 (<http://www.aoba-sousai.co.jp/>)。龍源寺本堂でお葬式をなされる場合の指定業者になります。丁寧なお仕事で、皆さまに、よろこんでいただいております。▼九月二十二日(日曜日・秋分の日)午前十一時より、秋彼岸会の法要を行います。どうぞ、ご家族でお参りください。寺族一同お待ち申し上げます。